

G I G Aスクール

校長 榮 秀之



本校パソコンルームには、子ども用に40台のパソコンを置いています。

この時期になると、バッタやカマキリなどが入った虫かごや通学路でつかまえたクワガタやカブトムシ等を手に持って登校してくる子どもが増えてきます。これも、自然が豊かな折本小ならではの風物詩の一つになっています。

さて、高度情報化が加速する現代では、PC端末は必需品となり、家庭でも仕事でもICT（情報通信技術）の活用は日常的なものになっています。今現在も学校には、子ども用に40台のパソコンと40台のタブレット端末が用意され授業で活用しているところです。

この流れの中に、国が進めるG I G Aスクール構想（義務教育を受ける児童生徒のために、1人1台の学習者用PCと高速ネットワーク環境などを整備する5年間の計画）があります。横浜市は、災害や感染症の発生などによる学校の臨時休校などにおいて、ICTの活用により全ての児童生徒の学びを保障できる環境を早期実現するため、今年度中の整備を進めるとしています。今後、端末を使って「学びの改革」「心とからだのケア」「学校と家庭との連絡調整」などに取り組むことが考えられています。具体化に向けて、ご家庭にも協力をいただくことがあるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

8月1日から夏休みに入ります。新型コロナウイルスの感染防止、熱中症予防、交通事故防止等の具体的な行動について、ご家庭でも確認をしていただきますようお願いいたします。

保護者の方へ… **子どもの特性を踏まえた指導をお願いします** 神奈川県警察

特性① ひとつの事に夢中になる
「飛び出し」がいけないことは理解していても、道路の向こうに友達や家族がいると、周りの状況には目もくれず、つい飛び出てしまいます。
道路を渡る時は、横断歩道を渡る 信号を守る 手をあげて安全確認をする 等、安全な行動が身につくように、繰り返し教えましょう。

特性② 単純思考 抽象的な言葉では伝わらない
「手をあげる」「左右をみる」だけでは、子どもは理由まで理解できず、手の位置が低かったり、ただ漠然と首を振るだけになってしまいます。
「車の運転者に見えるように手をあげる」 「右や左から車が来ないか見る」などと具体的に教えましょう。

「いつもの道路」もチェックをしてみましょう!
○ 子どもの目線で危険をチェック!
○ 危険回避方法を具体的に指導
○ 覚えるまで、何度も繰り返す

特性③ 大人に依存
子どもは、良いことも悪いことも大人のマネをします。
また、「大人がいれば安心」と判断し、安全確認などを大人任せにしてしまいがちです。
子どもと一緒に安全確認を行うことはもちろんですが、周囲の大人が、日ごろから交通ルールをしっかりと守り、子どもの手本になりましょう。

特性④ 視界が狭い
子どもの視界は、大人の3分2程度といわれています。安全確認をさせるときは、顔をしっかりと振らせましょう。

垂直方向の視野 水平方向の視野